

1 日常の学習状況について

- (1) 目の前の課題に前向き取り組み、目標に向かって知識・技能を身に付けることに意欲的である。また、多くの生徒は、学んだことを使い、考え、表現しようと努力している。
- (2) 暗唱、漢字の小テスト、ワーク、ノートなどに意欲的に取り組む生徒が多いが、ノートに書くということも苦手な生徒がいる。
- (3) 予習にあたる家庭学習の課題への取組が不十分なため、授業中の主体的な取組が滞りがちな生徒がいる。

2 中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

- (1) ワークシートや提出物に真面目に取り組むため、既習事項の問いに対する正答率は大変高いが、切り口を変えた問いへの正答率は低い。
- (2) 知っていることをどう使っていくかという思考力・判断力・表現力を向上させる学習をより充実させる必要がある。
- (3) 期末考査でテストの振り返りをさせ、「解答の仕方（理由の答え方、問題の指示に当てはまる解答の書き方など）」を確認した成果が2学期の中間考査で表れるよう、さらに学習の仕方について振り返る機会（テスト直し）を作る。

3 学力に関する状況

授業で提示した課題については多くの生徒が真面目に取り組み、成果も出ている。しかし、普段の授業でも「集中して聞き取る」ことが不得意な生徒もいる。また、基本的な「書く力」が身につけていない生徒もおり、定期テストの問題になると、まずは問題量の多さに対応できていない生徒もいる。日々の授業でノートに「聞き取ったことをメモさせる」、メリハリのある明確な発問など工夫し、注意や意欲を喚起する必要がある。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ・文章を正確に読み取る力や、記述されていない内容を想像する力、自分の意見を的確に表現する力が不足している。
 - ・語彙を増やす学習が不足している。
 - ・家庭学習の習慣が身につけていないため、予習ができていない生徒は、どうしても授業中にノートを取り切れていない。
- (2) 指導面
 - ・個々の達成感、成就感の得られる授業、常に全員が授業に参加できる学習の場としてまだ充分とは言えない。
 - ・提出物を出せない生徒への個別指導がやりきれていない。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・本気でやりたい、夢中になる課題や発問に取り組ませる。
- ・一人ひとりに、学習の目標をきちんと把握させた上で授業に取り組ませる。
- ・毎日の漢字の小テスト、またそれに向けての漢字練習、暗唱の学習に取り組ませる。
特に学習意欲のもてない生徒が達成感を味わえるよう、家庭学習の方法を具体的に伝え、励ます。
- ・「書く」ことに関して設定された様々な課題に段階的に挑戦させる。
- ・時間がかかるが、語彙を増やす学習を丁寧に継続する。

(2) 指導面

- ・本気でやりたい、夢中になる課題や発問を工夫する。
- ・学習目標（めあて）は常に掲示しているが、これまで以上に生徒に自覚させる。
- ・学びの足跡を残すために、ノートづくりについて改めて確認する。特に授業中にノートをとることもままならない生徒に対して、ポイントを書き込んだ掲示物を準備し、学習の跡がわかるノート作りを徹底するなど個別指導に力を入れる。
- ・授業の最初に漢字及び言語事項（慣用句・文法など）に関する練習を実施したり、簡単な暗唱に取り組ませたりすることで努力の成果を実感させ、自信を付けさせる。
- ・提出物を早めに提示し、進捗状況を確認する。誤りのあった提出物の評価を返却し、やり直しができるようにする。（学習掲示板の活用）
- ・文学的な文章に多く触れさせ、豊かな表現力を身につけられるようにする。
- ・論理的な文章を書く力を高めるために数多くの百字から二百字の作文に取り組ませ、意欲を喚起する魅力的な表現活動を取り入れる。
- ・社会・世界に関心をもち、新聞やニュース等から情報を得て、自らの世界を広げさせる。（1分間スピーチの開始）
- ・少人数での学習を効果的に取り入れ、書いた韻文や文章を互いに読み合うこと、考えたことを発表し合うこと、課題について話し合うこと、互いに助け合いながらより良いものを協力して作り上げることを通して、主体的に学び合い、豊かな考えを得る喜びを味わわせる。
- ・見通し、調整していく力を育てるために、単元ごとの個人評価、相互評価を行わせ、自己の変容（成長）と次への目標を確認する。
- ・定期テストの振り返り（テスト直し）を、日ごろの授業や家庭学習編の取組も含めてきちんと行わせる。

6 成果の確認

- ・観点別評価の学期ごとの比較、改善に向けての考察を行う。
- ・定期考査や聞き取りテストなどの結果から改善に向けての考察を行う。
- ・生徒の授業評価から、指導方法の改善を行う。

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

国語科 2年生

1 日常の学習状況について

- (1) 授業は落ち着いて臨むことができている。発問に対しても真剣に取り組み、自分の考えを深めることもできている。一方で、タブレット学習が多くなっているからか字を書くスピードが遅く、漢字を書けない生徒も一定数いる。また、発言する生徒が固定化しており、積極性に欠ける面もある。
- (2) 毎回の漢字の小テストに取り組むことで、漢字への苦手意識は改善されつつある。基礎的なことが大切だと気付いている生徒が多く見られた。
- (3) 基礎的な読解力は身に付いているものの、読解した内容に対して自分の意見をもつことを苦手としている生徒が多い。

2 期末考査等の結果を踏まえて

- (1) 漢字の「読み」「書き」については、日頃から取り組んでいる漢字の小テストの成果が表れ正答率が高かった。
- (2) 基本的な読解力が身につけている生徒が多いため、書き抜き問題や文章の構成に関する問題は正答率が高い。解答を本文に基づいて考えることができている。
- (3) 問いに対する答え方ができていない生徒が一定数いる。何を聞かれているのか何を答えたらいいのか読み取るスキルが必要である。
- (4) 問いに対しての文末表現に課題がある。

3 学力に関する状況

- (1) 他の生徒の意見を踏まえて自分の意見を発展させようとする姿勢をもった生徒が多い。
- (2) 意欲的に授業に取り組む姿勢が整っている生徒と整っていない生徒との差が大きい。
- (3) 自分の意見を全体で発表したり、表現したりすることを苦手としている生徒が一定数いる。
- (4) 原稿用紙の使い方や問いに正対した文末表現等、基礎的な知識の復習が必要である。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ・全体に向けて自分の意見を発表することが苦手な生徒が多い。
 - ・字を書く機会が減っているために、字を書くこと（ノートやワークシート等）を苦手としている生徒が多い。また、自分の考えを文章の構成に沿って組み立てたり、具体例を挙げて考えたりすることができる生徒が少ない。
 - ・語彙数が少ないため、語彙を増やす授業をしていく必要がある。
 - ・国語が苦手な生徒に対して、本文を正確かつ丁寧に読み解いていく練習が必要である。

(2) 指導面

- ・提出物を出せない生徒への個別指導が必要である。
- ・語彙数を増やすために漢字や新出語句の学習だけでなく、様々な面からの働きかけが必要である。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・毎日の漢字の小テスト、またそれに向けての漢字練習に取り組ませる。
- ・ノートやワークシートを書く時間を確保し、字を書く機会を増やす。
- ・辞書を引く時間を取り、活用できる語彙を増やす。
- ・便覧を活用し、国語に関する知識を身に付けさせる。
- ・ワークシートを活用し、文章理解力や表現力を身に付けさせる。
- ・字数制限のある文章を作り、自分の考えを伝える作文を書く機会を増やす。
- ・單元ごとの振り返りの活動等を通して、文章の内容に関して自分の意見を持ち、表現する力を養う。
- ・生徒同士の意見を交換する活動を充実させ、自分の表現を客観的に見つめなおす力を養う。

(2) 指導面

- ・授業の流れや目標を明確にして、生徒に授業の見通しをもたせる。
- ・授業の始めに漢字小テストを行い、努力の成果を実感させる。また、間違った漢字のやり直しをすることで確実に基礎力を養う。
- ・ノートを書く時間を確保し、書くことが苦手な生徒へ個別対応をして自信をもたせる。
- ・提出物等を早めに提示し全員が無理なく提出できるように指導する。
- ・評価のポイントを明確にし、生徒が目標をもって学習に取り組めるよう指導を行う。
- ・机間指導をし、個別に指導できる時間を確保する。

6 成果の確認

- (1) 観点別学習状況の評価を学期ごとに考察する。
- (2) 中間考査、期末考査の結果を考察する。
- (3) 授業で使用したノートやワークシート、生徒の授業評価の考察を考察する。

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

国語科 3年生

1 日常の学習状況について

3年生の国語の学習状況については以下のような特徴が見られる。

- ・真面目に授業に取り組む生徒が多く、おおむね落ち着いた学習態度である。
- ・発言が苦手な生徒も、少人数集団での活動を取り入れることで、他者の意見を受け入れながら、自分の考えを発信することができている。
- ・「知識・技能」については、漢字の学習によく取り組み、字を丁寧に書くことができる生徒が増えている。学習意欲の低い生徒は、『漢字の読み・書き』への苦手意識が、作文やその他の言語活動に波及している。
- ・「思考力・判断力・表現力」における『話すこと・聞くこと』については、人前に立って自分の考えを発表したり、表現したりすることに対して苦手意識をもっている生徒もいるが、おおむね相手に伝えることを意識して発表することができる。
- ・「思考力・判断力・表現力」における『書くこと』については、苦手意識をもっている生徒もおり、作文等で表現することに対して抵抗感を示す生徒もいる。
- ・自らすすんで読書を行う生徒が多く、『読むこと』については総じて基本的な学力が身についている。

2 期末考査等の結果を踏まえて

- ・基本的な読解力が身につけている生徒は多いが、語彙力や表現力などが不足している部分がある。
- ・漢字の「読み」「書き」については昨年度より正答率が下がっている。特に、「書き」については反復練習を行っている生徒とそうでない生徒の差が激しい。
- ・「記述力」については、字数制限のある問いに対して、要約する力や要旨を捉える力が身についてきている一方で、面倒くさがり、記述になった途端手をつけない生徒もいる。また、問いに対する正対した答え方ができていない部分がある。
- ・「読解力」については、記号問題や書き抜き問題は正答率が高く、文章中から必要な部分を読む力が身につけていることが分かった。

3 学力に関する状況

全国学力調査の結果から、全国より7ポイント上回っていた。

- ・特に、本文中の情報と情報との関係について理解する力が身につけている。
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約する力、必要な情報を適切に取り上げてまとめる力、自分の考えが伝わる文章になるように表現の効果を考えて工夫する力を意識して取り組ませる必要がある。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ・書くことにおいて、自分の考えを整理して、筋道を立てて、適切な言葉で表現することを苦手としている。
- ・相手に応じて自分の考えが最も伝わる表現を目指し、語感を磨く練習が必要である。
- ・国語が苦手な生徒に対して、本文と問いを照らし合わせながら、丁寧に読み解いていく練

習が必要である。

(2) 指導面

- ・一斉指導のあと、個別に指導する時間の確保が必要。
- ・提出物を出すことができない生徒への個別支援、声かけが必要。
- ・様々な話し合い活動の設定。小集団から中集団、大集団へと段階を踏んだ活動が必要。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・辞書を引く時間を確保し、辞書を引くことに慣れさせ、語彙力を磨く。
- ・定期的に小テストを実施したりワークシートを用いるなどしたりして、基礎学力や知識を着実に定着させ、文章理解力や表現力の一層の向上を図る。
- ・漢字については、2学期以降、小学校で学習する漢字1006字に加え、中学1年～2年で学ぶ漢字について定期的に小テストを実施し、知識の定着を図る。
- ・多様な文章に触れることで読解力を養い、論旨を明確に捉え、深く考える力を養う。
- ・知識を活用して考える課題に取り組ませるとともに、発表や作文等の表現する学習活動を充実させる。
- ・書き方に関する指導をさらに充実させるとともに、相互評価などの交流活動を積極的に設け、互いに推敲することで、より伝わりやすい書き方への理解を促進させる。
- ・話し合いが苦手な生徒に対しては、「発表の型」を提示することで抵抗感をなくしていく。また、生徒同士の意見交換も含め、発言・発表の場を大切にし、筋道立てて説明する力を養う。
- ・朝読書の時間以外においても国語科で読書と生活とのかかわりについて考えさせる時間を作り、ブックトーク等を行う機会を設けることで語彙力、表現力の向上を図る。
- ・ICT機器を活用し、個別の学びを広げたり深めたりすると共に協働的な学びを展開する。

(2) 指導面

- ・毎時間の目標や内容を明確にすることで見通しをもたせ、生徒が理解を深められるよう、的確な発問を工夫する。
- ・生徒同士で確認したり教え合ったりできるような「学び合い」の時間を活動に取り入れていく。
- ・体験的な学習や問題解決的な学習の機会を増やし、個だけではなく協働して課題解決に取り組む姿勢を育てる。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和6年度末に以下の方法で評価する。

(1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較

(2) 中間考査、期末考査の結果の考察

(3) 長期休業明けテストの実施と結果の考察